



特集 自殺総合対策大綱改正に向けての民間ヒアリング参加報告

## 定期総会を開催しました。

5月19日に定期総会を開催しました。今回の総会は、NPO法人として事業を本格的に開始してから初めての総会。事務局は準備段階から大忙しでしたが、なんとか準備を整え、予定通り開催することができました。

総会当日は、会場にやってくるボランティアの皆さんの様子が、普段の会議や電話相談のグループ研修、街頭活動などで集まるのとはどこか違った雰囲気。所属委員会を問わずにボランティアが一堂に会することはあまり多くないため、見慣れた顔でも新鮮な気持ちです。普段、ボランティアと直接会う機会の少ない清水新二理事長や生越照幸理事が参加するからか、会場は良い意味での緊張感と期待感で満杯でした。

議案の決議は、収支決算や活動の報告、定款の文言変更など、滞り無く進み、最後には、改めてSottoの活動目的を見つめなおしました。そのことで、理事、運営委員、ボランティアみんなで気持ちをひとつにすることができたのではないかと思います。

各理事からも活動についての意見が出され、よりよい活動を進めるための有意義な時間をもつことができました。議事は真剣に進めながらも、全体的に和気あいあいとした雰囲気、会議室は笑顔でいっぱいでした。

Sottoの活動もはや3年目。事務局では、総会準備のピリピリした気持ちも吹っ飛び、新年度への意気込みをあらためて感じています。それと同時に、来年こそは計画的に準備を進めなければいけないな、と反省するのでした。

(事務局長 金子宗孝)

※昨年度の事業報告、本年度の活動計画は、来月号に添付資料として配布する予定です。

自殺総合対策大綱改正に向けての民間ヒアリング参加報告

## 多様な価値観を踏まえた政策を求めて！

5月31日に、メルパルク大阪で「自殺総合対策大綱の見直しに向けた民間ヒアリング」が開催されました。「自殺総合対策大綱」は、平成19年6月に政府の自殺対策の指針として政府が決定したもので、国、地方公共団体等がこの大綱をもとに政策を進めていくため、大変重要な意味を持っています。この大綱は5年ごとの見直しをすることが定められており、本年がこの大綱の見直しの年に当たるため、内閣府で検討が進められています。見直しに当たっては現場の視点を盛り込むために、自殺対策に取り組む民間団体との会合が開催されました。

今回の会合には、関西以南の府県から推薦された24団体が参加し、当センターからは2名の理事が出席しました。5分という短い時間でしたが、それぞれの要望を発表し、他団体の方からも意見をいただくことができました。

様々な団体が様々な活動を各地でおこなっていることを周知する機会にもなりました。様々な活動があることによって、必要な人が必要な時に必要な場所にたどりつけるような社会になれば良いなと感じました。

今回の内容がどこまで反映されるのかはわかりませんが、今夏に改定が行われる予定です。改定の発表に注目したいと思います。

(N.Y.)

※自殺総合対策大綱について詳しく知りたい方はコチラから⇒ <http://www8.cao.go.jp/jisatsutaisaku/taikou/index.html>

### 【要望内容】

自死に対する多様な価値観が認められる施策となるよう、「大綱」における特定の自死に対する認識に基づいた記述が修正されることを要望します。

政府の政策においては、「当事者本位」の施策の重要性が示されています（例：「いのちを守る自殺対策緊急プラン」）。この観点は一貫して重要だと私たちも認識しております。

さて、「当事者本意」の施策とは、一般的には、当事者の声に最大限に配慮した施策であり、当事者の誰もが基本的にこれ以上、苦悩の増すことがないように行う施策であるはずで、当事者は、きわめて多様な認識、感情を持っています。自死についても、どのように感じているか、当事者の認識として画一化、一般化することはできません。

「大綱」第1章1・2における、「人の「命」は何ものにも代えがたい」「自殺は、本人にとってこの上ない悲劇である」「自殺は追い込まれた末の死」「自殺は防ぐことができる」などの記述は、それが科学的な正否や遺族の声であるかどうかとは別に、自死についての一つの認識や価値観を示すものです。したがって、この価値観を受け入れることの難しい人や違和感のある人にとっては、大きな苦悩を与えられることとなります。そこで、苦悩が和らぐことを目的とした政策として、多様な価値観や認識があることを大前提とすることを要望します。具体的には、次の文言の置換を提案します。

### 【現大綱】

「人の『命』は何ものにも代えがたい。また、自殺は、本人にとってこの上ない悲劇であるだけでなく、家族や周りの人々に大きな悲しみと生活上の困難をもたらし、社会全体にとっても大きな損失である。国を挙げて自殺対策に取り組み、自殺を考えている人を一人でも多く救うことによって、日本を『生きやすい社会』に変えていく必要がある。今後、大綱に基づき、地方公共団体をはじめ、医療機関、自殺の防止等に関する活動を行う民間の団体等との密接な連携を図りつつ、自殺対策を強力に推進する。」



### 【改定案】

「国を挙げて自殺対策に取り組み、日本を『居心地の良い社会』に変えていく必要がある。そのために、大綱に基づき、地方公共団体をはじめ、医療機関、自殺に関する活動を行う民間団体等との密接な連携を図りつつ、自殺にまつわる苦悩を和らげる対策を、当事者の観点から具体的に提示する。この対策を推進することにより一人でも多くの自殺にまつわる苦悩を抱えた人の苦悩を和らげる。」

Sotto レビュー 荻上直子 監督

## DVD 『かもめ食堂』



美味しそうなものがたくさん登場することで有名なこの映画。おにぎり、シナモンロール、コーヒー・・・など書いているだけでおなかが空いてくる。でも、それだけではない。何度も鑑賞するうちに、しみじみと味わいが増す物語。それがやっぱり大きな魅力だ。

主人公は日本人のサチエ。フィンランドのヘルシンキで日本食を出す「かもめ食堂」を営んでいる。その食堂に集まってくる人たちはそれぞれに事情を抱えているらしい。しかし、この映画の中で事情はほとんど明かされない。事情を話さなくても〈そこにいていい〉雰囲気「かもめ食堂」にはある。

「どこにいたって悲しい人は悲しいし、寂しい人は寂しいんじゃないですか？」というセリフ。そこに表われたサチエの想いが食堂の雰囲気をつくっているのだろう。

外国だからこそ浮き彫りになっている人間関係。でも居心地のよい人間関係をもてる場所は、意識すればどこにいたってつくれるのかもしれない。そんな想いをめぐらせながら、ついシナモンロールに手をのばしている。

(N.Y.)

## 活動報告

- 電話相談件数…100件（5月期）
- 相談活動委員会  
グループ研修 5月7日（水）10名
- グリーンサポート委員会  
グリーンサポート会議 5月22日（木）8名
- 啓発活動委員会  
啓発活動委員会会議 5月14日（月）参加者5名

## 今月のことば

ほんとうにおれのもんかよ  
冷蔵庫の卵置き場に落ちる涙は

（『シンジケート』穂村弘・沖積舎）

## 寄付ご協力一覧（敬称略・順不同）2012年5月1日～5月31日

ご協力にこころより感謝いたします

浄土真宗本願寺派	和歌山市・万福寺	山河彰子	加藤泰行	齊木馨
株式会社エクザム	和歌山市・宗善寺	竹本了悟	植田豊	山口茂次
福岡県・正円寺（高石彰也）	神戸市・勝光寺	東野久子	武田昭英	玉置大
福岡市・西光寺	菊井誠	清水道子	高田妙子	中川博司
和歌山市・妙慶寺（園田香樹）	芝軒里子	普賢保之	野村栄	左崎充
宮崎市・真栄寺（馬場道隆）	打本弘祐	長尾光洋	柳澤惇子	福岡康仁
広島市・善正寺	前田富子	柳田澄子	深井恵純	谷山佳秀
行橋市・廣宣寺（小松敏英）	兒玉智文	渡辺哲彦	能美潤史	大杉孫一郎
島根県邑智郡・西福寺（小笠原義宣）	吉田典生	葛野洋明	中尾史峰	岡山昭道
山口県熊毛郡・誓立寺（月林昌昭）	成川和行	調誠学	蓮本史郎	江田昭道
鳥栖市・正行寺	兼子千雅子	平島義仁	北浦思朗	尾上裕子
北九州市・西蓮寺（黒田幸裕）	孫工ひとみ	西原華林	菅秀範	飛高昭博
淡路市・宣勝寺（田近早弓）	霍野廣由	北塔光昇	北島晃融	浜口登弘
洲本市・浄光寺（梅林稚道）	瓜生智子	沢内道代	匿名	田中晃
千葉県夷隅郡・音教寺	中山裕介	弘中満雄	佐々木隆晃	高丘樹俊
岸和田市・称名寺（出口湛龍）	森田恵	長岡裕之	匿名	水谷真見
岐阜県加茂郡・善教寺（所淨伸）	生越照幸	日高宏	廣谷ゆみ子	古庄昌
熊本県上益城郡・法光寺	安部智海	住谷茂	福高教人	麻野敏一
市川市・中原寺（平野俊興）	清水新二			
さいたま市・最勝寺	草田みち子			
長野市・讚楽寺	加茂順成			
広島市・教専寺	水島真理子			
姫路市・善正寺	横田裕晃			
大津市・福賢寺	田嶋弘典			
廿日市市・西向寺	寒香香代			

※今号の被災地ノートは紙面の都合でお休みいたします。

### ●支援方法

賛助会員 年間1口3,000円

寄 付 金額は問いません

法人会員 年間1口10,000円

### ●会費・寄付金振り込み先

郵便振替 ゆうちょ銀行[振替口座] 00950-0-271875

他行振替 ゆうちょ銀行[当座] ゼロキョウキョウ 〇九九店 0271875

### Sotto コメント

京都も梅雨入りしました。雨傘は荷物になるし、洗濯物は乾かないし、食べ物にはカビが生えるし、梅雨の嫌なところはすぐに浮かびます。梅雨の好きなところは…。濡れて輝く草木や瓦が美しいこと。ほかにはなかなか思い浮かびません。皆さんはいかがですか？  
(N.Y.)

発行 2012年6月

特定非営利活動法人 京都自死・自殺相談センター事務局  
〒600-8349 京都市下京区西中筋通花屋町下ル堺町 92

TEL 075-365-1600

URL <http://www.kyoto-jsc.jp>

E-mail [so-dan@kyoto-jsc.jp](mailto:so-dan@kyoto-jsc.jp)